



◀ そのほかの取材記事はこちらから

市内のイベント情報ははこちらから▶

西野 康代 赤こんリポーター



テレビ番組でも紹介された東家住宅

東家住宅は、安土駅から安土城跡までの道のりのちょうど半分あたりにあります。江戸時代に建てられ、国の登録有形文化財になっている立派な建物です。その昔、織田信長の面前で竹を使った力比べを行い、互角の戦いをした安土の豪族に「東」「西」の姓を与えたという由来が伝わっています。これが今の相撲の東、西の取り組みの起源だそうです。お家の中を拝見すると、代官だった時代のいろいろな道具や、襖絵、赤い壁などがあり、歴史を感じました。圧巻は茅葺きの屋根を下から見上げられることです。

普段は非公開ですが、3月6日(金)と8日(日)の2日間、午前10時から午後4時に特別公開していただけるとのこと。興味を持たれた人はぜひ足をお運びください。

山田 恵美 赤こんリポーター



大好きな絵本を次の誰かへ つなぐ絵本ライブラリー

ヴォーリズみらいビレッジ(浅小井町)にあるコミュニティスペース「つなぐルーム」では、ピースマムプロジェクト主催で絵本交換会&寄付会「つなぐ絵本ライブラリー」が不定期で開催されています。お家で読み終わった本2冊を持っていくと、つなぐ絵本ライブラリーから1冊好きな絵本を持ち帰れる、というものです。絵本の寄付のみも受け付けています。そんな「つなぐ絵本ライブラリー」が現在、アル・プラザ近江八幡内無印良品の一角で開催されています。成長と共に移り変わっていくお気に入りの絵本、読まなくなった絵本を次の誰かへつないでいく。地球にもやさしく、温かな交流が生まれる取り組みだと思いました。

向坂 奈穂美 赤こんリポーター



カラフルであたたかい空間、 はやしすみ原画展へ

市内を走る移動図書館車「はちっこぶっく号」のデザインを手掛けた、市内在住の絵本作家・はやしすみさんの原画展が近江八幡市立図書館で開催されました。

会場に並ぶのは『たぬはらさんのどこでもとしゃかん』のカラフルで愛らしい原画たち。はやしさんが「移動図書館の体験を届けたい」との想いで描いた絵本です。特に印象的だったのは、製本前の試作段階のイラスト。完成版とは異なる色使いから、試行錯誤を重ねて物語を紡ぐ丁寧な過程が伺えます。手仕事のぬくもりが紙の上からじわっと伝わり、眺めるだけで心があたたまる空間でした。

松村 美沙枝 赤こんリポーター



「あったらいいな」をみんなで共有 ことども×まちフォーラム

1月31日、桐原コミュニティセンターで「ことども×まちフォーラム 2025」が開催されました。大人も子どももグループに分かれ、「こんな場所があったらいいな」「そのために自分たちは何ができるかな」をディスカッション。「近所に駄菓子屋が欲しい」など小中学生のリアルな声や、「長期休みだけ行ける学童に代わる場が欲しい」といった子育て世代からの切実な声まで、さまざまな意見が飛び交いました。子どもが自由に遊べる場や子ども食堂によるランチタイムもあり、参加者は充実したフォーラムを楽しんでいました。

2月3日



大河ドラマ「豊臣兄弟！」(NHK) 秀次の父・弥助役の上川周作さんが来幡

現在放送中の大河ドラマ「豊臣兄弟！」で豊臣秀次の父・弥助(三好吉房)役を演じる上川周作さんが、本市の秀次ゆかりの地を訪れました。

上川さんは、弥助の妻・とも(智)が、非業の死を遂げた息子・秀次の菩提を弔うために創建した村雲御所瑞龍寺門跡や、交通の要衝であり、近江商人が活躍した八幡堀や新町通りなどの城下町を散策。「秀次さんが築いたものが今もなお大切に残されていることに、市民の皆さんの歴史を継ぐという強い思いを感じました。私自身もその姿勢を見習いたいですし、ドラマでもその思いを胸に、弥助役を大切に演じていきたい」と話していました。

1月23日



豪華絢爛 安土城築城 450 周年 記念フレーム切手

安土城築城 450 年を記念して、(株)日本郵便と(一社)近江八幡観光物産協会が、オリジナルフレーム切手を作成しました。切手は安土城郭資料館に展示されている「安土城屏風絵風陶板壁画」がモチーフとなっており、これには安土城屏風をローマ法王に届ける天正少年使節団の行程や、金色に輝く豪華絢爛な安土城が描かれています。当日は、安土城築城 450 年協議会と本市に切手が手渡され、地域のにぎわい創出に向けて、関係者間での協力を確認し合いました。小西市長は「この切手で安土城の歴史と魅力を全国へ届けられれば」と、これからの盛り上がりに期待を示していました。

1月31日



琵琶湖の水鳥どこまで?

休暇村近江八幡の目の前にある宮ヶ浜で、ふるさと近江八幡水鳥観察会が開かれ、7組18人の親子が参加しました。毎冬、琵琶湖には国境を越えて水鳥がやってきます。「こんなに寒い冬になぜ？」と思うかもしれませんが、シベリアなどの北方に住む水鳥たちは、凍っていない湖まで餌を求めて移動してくるそうです。この日は雪がちらつく中、親子が仲良く双眼鏡をのぞき込んでいました。講師の「チームむべなるかな」の山口龍三さんは、絵や写真を使って子どもたちに水鳥の見分け方などを楽しく教え、子どもたちは「こっちにユリカモメがいるよ!」「本当に目が金色に見える」と、楽しそうに水鳥を探していました。

令和 8 年度 赤こんリポーター 大募集!

応募期間 3月13日(金) まで

市民目線で地域の魅力やイベントの取材情報などをご紹介いただく、令和8年度の市民広報リポーター(愛称:赤こんリポーター)を募集します。

詳しい応募条件などは市ホームページ(HP 126 34)をご覧ください。

ご応募お待ちしております!



赤こんリポーターの投稿記事は下記二次元コードからご覧いただけます。



市ホームページ



インスタグラム

問 秘書広報課 TEL (36) 5526・FAX (32) 2695

